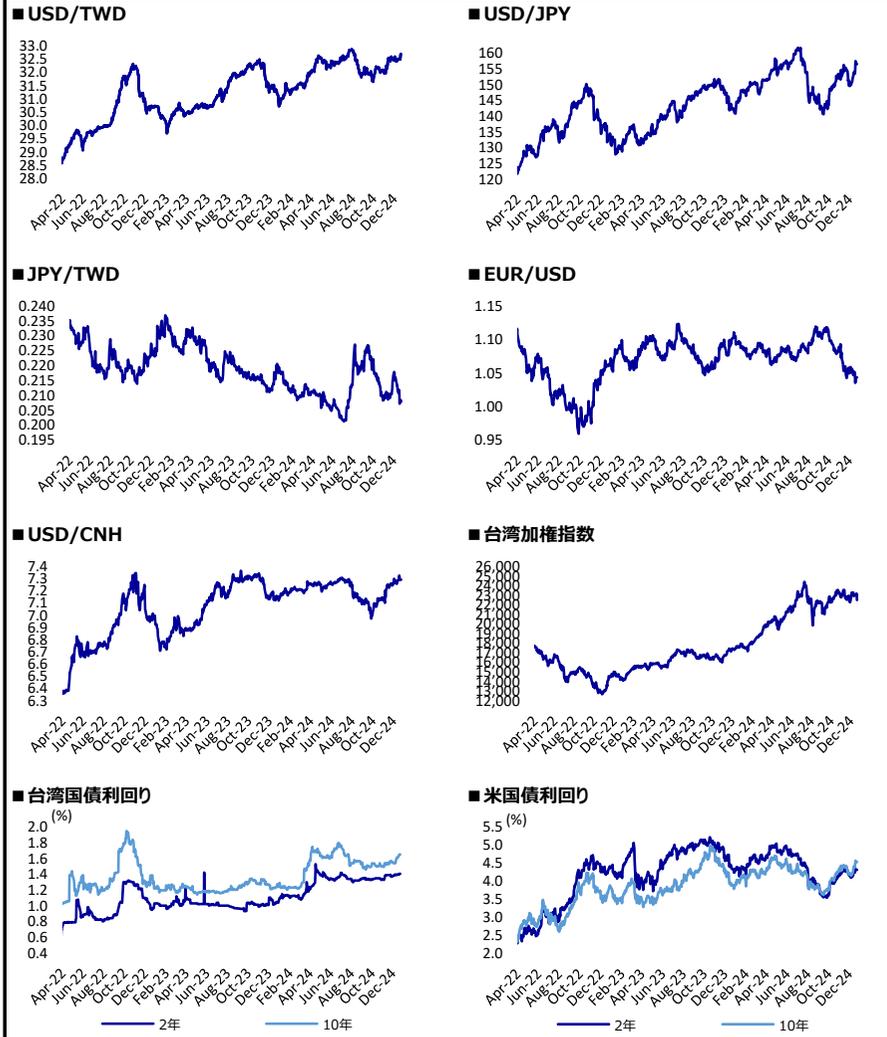


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初12/16は32.500でオープン後、12月FOMCを控え、様子見姿勢が強まり、32.50近辺で揉み合いの推移。12/17についても、イベントの前にドル/台湾ドルは引続き32.50近辺でレンジ推移。12/18は、人民元の下落を受け、台湾ドル売りが優勢な展開に。午後に入ると、台湾株における外資の買い越し額が増えたことを背景に、台湾ドルが買い戻され、最終的に32.481でクローズ。12/19、FRBの経済見通しでは来年以降の予想利下げ回数を4回から2回に引き下げたことを受け、ドル買い優勢の展開。午後に入ると、外資による資金流出が加速する中、一時32.726まで上昇。最終的に32.668でクローズ。12/20は、FRBのタカ派的な利下げを受け、グローバルにドル高が進行。また、クリスマス休暇の前に、外資による台湾株売りが見られ、一時32.736まで上昇。最終的には前週比0.56%ドル高台湾ドル安の32.691で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は529.6億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は上昇。週初12/16は153.66でオープン後、金融政策会合で日銀が利上げを見送る公算が高まっている中、円売り地合いが継続。海外時間、米12月サービス業PMIが市場予想を上回った事を受け、一時154.48まで上昇。12/17は、今週の金融政策会合を控え、動意に欠ける展開が続き、ドル/円は154円台近辺で揉み合いの推移。海外時間に入ると、米金利の低下が重しとなり、153.50付近まで反落。12/18は、FRBは予想通り25bpの利下げを発表した一方、同時に発表された経済見通しではインフレ見通しを大幅に引き上げ、来年以降の予想利下げ回数を4回から2回に引き下げた。こうしたタカ派的な利下げを受け、ドル/円は一時154円台後半まで上昇。12/19は、FRBによるタカ派的な利下げに加え、植田総裁の記者会見では今後利上げを示唆する発言が特段見られなかったことを受け、米長期金利の上昇と共にドル買いが先行し、157.80まで続伸。最終的に157.44でクローズ。12/20は、前日の日銀金融政策会合後の円売りが継続し、一時157.93まで上昇。しかし、日本財務大臣による円安けん制発言を受け、ドルロング勢の利合いが優勢となり、一時155.97まで下落。最終的には前週比1.75%ドル高円安の156.44で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD** 予想レンジ：32.500-32.800  
今週のドル/台湾ドルは揉み合いの推移を見込む。FRBのタカ派的な利下げを受け、グローバルにドル高が進行したものの、クリスマス休暇の前に、値動きは限定的に留まるだろう。また、先週末に発表された米PCEが予想を下回ったことで、ドルが下落に転じ、ドル/台湾ドルは揉み合いの推移となるだろう。

**■ USD/JPY** 予想レンジ：155.50-162.50  
今週のドル/円は底値の堅い推移を見込む。来年の利下げ回数予想を減少させたFOMC結果と来年春季まで利上げをしないとも受け取られる発言が聞かれた日銀という図式の中、米金利の上昇に伴い、為替市場ではドルロング・円ショート共に取りやすい環境となるだろう。

今週の予定

12/23 (MON)	米12月消費者信頼感指数、台湾11月失業率、11月鉱工業生産
12/24 (TUE)	米11月新規住宅販売件数、日銀金融政策決定会合議事要旨
12/25 (WED)	
12/26 (THU)	米新規失業保険申請件数
12/27 (FRI)	日12月東京都区部CPI、日11月失業率、11月鉱工業生産

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。